

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101611		
法人名	医療法人 青志会		
事業所名	ハートインライフ住吉		
所在地	徳島県徳島市住吉2丁目9番8号		
自己評価作成日	平成28年11月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成29年1月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活の中に笑い声が溢れる雰囲気作りを大切に、家庭的な環境の中、生き生きと過ごしていただけるよう支援する事を心がけています。職員は、入居者様が居心地がよく、安心して生活ができる環境作りに努めています。入居者様やご家族様のご意向に耳を傾け、できる限り要望に沿えるよう努めています。また、入居者様が、意思疎通が困難になったり、寝たきりになっていく中でもできる限りグループホームでの生活が継続できるように、職員の技術向上にも努めています。医療・介護・ご家族様との連携を図り、最期まで寄り添える看取りの体制も整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、同一法人の運営する他サービス事業所に併設している。“手と手のぬくもり溢れる笑顔”を理念に掲げ、近隣の保育所や住民との交流を大切につつ、誰もが自由で明るく笑顔で過ごすことのできる、家庭的な環境作りに努めている。管理者は、利用者一人ひとりの状態に応じた支援力の向上を目指しており、看取りについても、家族への対応を含めたマニュアル作りを進めている。また、今後の地域貢献の一環として、事業所内で認知症サポーター養成講座の開講を計画している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とは別に、「手と手のぬくもり溢れる笑顔」を掲げている。フロアの見やすい位置に掲示し、管理者、職員は常に念頭に置き、挨拶、笑顔を忘れずに日々の業務に携わっている。	事業所では、開所時からの理念を大切にし、玄関や食堂に掲示している。また、“いつも笑顔で 元気よく きちんと挨拶 今日も一日 無事故で”の方針を定め、職員間で確認しつつ利用者支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近隣住人の方への挨拶を忘れないようにしている。新年の挨拶や、暑中伺いを行っている。保育園との交流ができており、町内の自治会長さんは運営推進会議に参加して頂き、ご意見を頂いている。	年2回、定期的に職員は近隣住民の住宅を訪問するなどしている。利用者と職員で散歩に出かけており、その際に住民と挨拶を交わしている。近隣の保育所の子どもとの交流も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学者をいつでも受け入れ、グループホームをより理解して頂けるように説明させていただいている。また、運営推進会議を通して、日常生活の様子をお伝えしたり、認知症の理解や支援の方法をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の皆様よりご意見を頂き改善に向けてのアドバイスを頂いたり、ご家族のお話をお聞きできて、今後の取り組みの力となっている。防火訓練では地域の参加を呼びかけるようご意見やご協力を頂き、実践へむけて取り組めた。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。その際に外部評価結果の報告を行ったり、出席者と意見交換をしたりしている。自治会長の協力も得て、災害時における地域との協力についても話し合っている。出された意見を事業所の運営面に反映する努めているが、利用者が出席するまでには至っていない。	地域密着型サービスの特性から、利用者や地域住民、職員等がともに協力し合って、誰もが住み慣れたまちで生活し続けることができるよう、事業所での生活の主体者である利用者も会議に出席すること望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表者、管理者が月2回以上、徳島市役所、海陽町役場を訪問し、適時指導や情報提供、報告を行っている。また、生活保護受給者の受け入れや地域包括支援センターとの連携などがあり協働関係の構築に努めている。	定期的に、管理者は市担当窓口を訪問し、各種書類等を提出している。その際、事業所の現状を伝えたり、相談をしたりしている。また、利用体験者の受け入れも行っており、その際に町役場と連絡を取り合うなどして、本人にとって最良の暮らしを支援するためのあり方について話し合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が及ぼす影響や人権について職員研修を実施し、周知している。また、日常的にケアについて考え、職員間でミーティングを行っている。同意書を頂いて身体拘束を行った事例はなかった。	定期的に、職員間で介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為・弊害等に関する研修会を実施している。身体拘束をしない職場風土づくりに取り組んでいる。なお、入居時の段階から、利用者の特性等について家族と十分に話し合っており、安全を確保しつつ、自由な暮らしを支援するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてコンプライアンスルールを掲示している。管理者が率先して見回りを行い、職員が常に意識し、言葉使いや対応について配慮できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	詰所にパンフレットを置き、いつでも相談・支援できるようにしている。また、地域包括支援センター、県社協等の行う研修に参加できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書等については、ご家族に十分ご説明し納得して頂けるように管理者が対応している。また、改定の際にも書面で説明し同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来設時にはお話しをお聞きするようにし、日頃の様子についてご報告している。また、玄関にご意見箱を設置しており、ご要望をお聞きできるよう努めている。遠方のご家族にはお電話やお手紙にてご連絡する事を心がけ、ご意見を伺えるよう努めている。	管理者は、利用者一人ひとりの担当職員を定め、本人の意向や要望等をより把握しやすい体制としている。家族の来訪時のほか、電話や手紙、意見箱等も活用して意見を聞くようにしている。出された意見は、運営面に反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎日の申し送りの中で職員が意見や要望が提案できるように努めている。また、個別に意見を聞く時間をつくり、考えや提案がないか働きかけている。運営者と管理者は頻りに連絡をとり、情報の共有をしている。	管理者は、職員が日頃の利用者との関わりを通じて気付いたこと大切に捉えており、年1回実施する自己評価についても実践状況の提出を義務づけている。日常的な申し送り時だけでなく、個別の機会を設けるなどして職員一人ひとりから意見や提案を聞き、運営面に反映するよう代表者とも協議している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員に対し、「皆、元気ですか」「お疲れさま」「変わらないですか」と感謝と激励の言葉を常にかけ、職員を認め、やりがいや向上心をもてるようにしている。また、心身の変化にも相談に応じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修、介護職員による痰吸引研修、虐待についての研修、グループホーム協会の大会等に参加し、スキルアップや情報交換の機会をつくるよう進めている。事業所内でも計画的に勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他部門との職員相互に交流、研修の機会を設けている。グループホームとの情報交換も行っており、ネットワーク作りにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が職員に対し安心感をもって頂けるように心がけ、ご本人だけでなく、ご家族からも聴き取りを行い、希望や要望を実現できるように努めている。また、関係機関や利用サービス事業所との連携をはかり、情報を得る事でご本人の状況を把握できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、面会時、等にお話しができるよう声をかける事に努めている。お電話でも相談する場合があります、ご家族の要望に耳を傾け、対応するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の相談時に状況を把握したうえで、対応している。満床で対応できない場合は他のサービスの相談を行う場合もある。また、認知症ケアにおける対応等についてアドバイスできるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者ひとり一人の方と向き合い、意向や思いに寄り添えるように努め、残された残存機能が発揮できるように日常生活支援している。常に感謝の言葉を表し、気持ちを伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常生活について喜ばしい事、困った事等を常にお知らせできるように努め、共に相談しながら一緒に支援していただけるように心がけている。遠方のご家族には電話やお手紙でのやり取りも行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人が来設の際にはゆっくりお話しをしていただくようにしている。また、お墓詣りや外出の支援、かかりつけ医への受診の援助、併設のデイサービスとの交流、等を行っている。	事業所では、毎月、来訪してくれる長男と墓参りに行くのを楽しみにしている利用者や、併設の他サービス事業所に通う友人との交流、かかりつけ医の受診援助、家族との外食の支援など、利用者一人ひとりの馴染みの人や場所との関係を継続することができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活を通して馴染みの関係がつかられるように配慮している。食事の席の配置や、外出時、レクリエーション時の関わり合い等、職員が間に入り働きかけや支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退去された方には、その後の経過をお聞きしたり、お電話やお手紙を差し上げたりしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者の立場にたって、希望や要望をお聞きしている。また、判断に困る場合にはご家族に相談したり、最善の方法を検討している。生活空間には馴染みの家具やご家族の写真、好きなものを身近に置き過ぎて頂いている。	事業所では、日頃から利用者の思いや意向を把握することができるよう担当制を設けている。言葉による意思表示が困難な方には、表情の変化や些細な反応等から意思を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主治医、ケアマネ、他のサービス関係者との連携を図り、情報を共有できるように働きかけている。ご本人やご家族にも入居時のみならず、随時生活歴をお聞きし把握するように努めている。お聞きした情報は記録し職員皆が共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は一人一人の生活習慣について把握し、その日の状況の見極め、心身状態の変化について気付きをもてるように対応している。気付いたことは職員全員が周知できるように報告や介護記録に残すようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は一人の職員が考えるのではなく、利用者、ご家族、主治医、等の意見を考慮し職員全体で意見を出し合い作成している。	担当者が中心となって、毎月、モニタリングを行っている。また、6か月ごとに、関係者や職員の意見を踏まえて介護計画書を見直している。その後には家族にも提示して意見を出してもらったうえで介護計画書を策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践を毎日記録し、心身の状況を個別に記録している。日々情報交換、共有に努め、毎月のモニタリングにより変化がないか見直し、介護計画に結びつけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の心身の状況に応じ、かかりつけ医を受診したり、往診していただいたりしている。また、職員により、散髪をさせて頂いたり、デイサービスとの交流を図ったり、ストレッチ体操に参加したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族との繋がりを大切にするとともに、これまで行ってきた生活習慣が継続できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者やご家族の意向を踏まえ、かかりつけ医への受診を継続している。	事業所として定めた協力医療機関の主治医のみならず、利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門医への受診等は、主治医の指示のほか、本人と家族の意向を踏まえたうえで適切な医療の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に相談しながら、日々のケアや健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には同行し、身体状況の報告や服薬状況の連絡、荷物の運搬を支援している。入院中は定期的に訪問し、様子をお聞きしている。また、退院に向けて医療機関との連携を図り、受け入れ体制を整えるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に書面にて意向をお聞きするようになっているが、随時状況に応じて利用者、ご家族、主治医との話し合いの場を持ち、何ができるか検討している。方針は職員全体が周知情報がわかるように記録に残すようにしている。	入居時の段階で重度化した場合や終末期の対応について、事業所でできることを説明し書面で確認するようになっている。利用者の心身の状況変化に応じて関係者間で情報を共有し、チームで支援する看取りの体制を構築している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師や消防職員により、救急対応についての指導をうけたり、個別に予測できる事態については医師やご家族と話し合いを持つようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練を定期的に行っている。非常災害マニュアルを見直し、具体的に進められるよう努めている。隣の保育園と協力体制に努め、訓練を一緒に行う等相互に協力している。	年2回、消防署の協力を得たうえで、防火・避難訓練を実施している。災害時のマニュアルの見直しのほか、地域との協力体制の構築、備蓄品の整備等に積極的に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには常に注意している。記録の際にも敬う気持ちを持って記載している。会議等の場においても、尊敬の念を持って会話している。	事業所では、利用者の人格を尊重した声かけや誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。本人のいないところでの会話や記録にも、利用者を年長者として敬う気持ちを表現することを習慣づけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	能力に合わせた言葉かけや説明を行い、納得した上で行動できるように支援している。強制する事なく、待つ事も大切にしよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のレクリエーションにおいても、強制はせず、個々の生活ペースを重視している。食事時間の配慮や気分転換の散歩や外出にも留意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望や要望に沿って、買い物に同行したり、代行したり、お化粧を手伝ったり、散髪をさせて頂いたり、対応している。その日の衣服を一緒に考えたりして希望に添えるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の準備や肩付け、簡単な調理と一緒にやっている。週1回の夕食作りでは、献立を皆で考え、栄養バランス、季節感を考慮したメニューづくりに努めている。買い物、調理にも協力して頂いている。	昼食と夕食は業務委託しているが、朝食は職員が準備している。事業所で利用者一人ひとりの嚙下状態に応じた形態に加工している。木曜日には、利用者と職員で夕食の買い物に出かけたり、献立や調理等をともに行ったりしており、一連の取り組みが利用者にとって楽しみな時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎回記録し、体重測定を月1回は実施している。食事がすすまない時には捕食の提供も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、口腔ケアを実施している。義歯の洗浄にも留意している。歯ブラシ、スポンジ等を使用し定期的に交換している。口腔内の痰吸引も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意の訴えが困難な方でも定期的にトイレに座って頂けるように支援している。気持ちよく排泄し、清潔保持できるように留意している。	事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するよう努めている。日中はトイレで自立して排泄することができるよう取り組んでいる。夜間はポータブルを使用する人やオムツ使用の人もおり、オムツ使用者は3時間ごとに確認するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取や牛乳の摂取をすすめたり、体操、腹部マッサージ等行っている。排便状況を記録し、便秘がちな時には医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるようにしている。個々のペースやタイミングに合わせてお誘いするようにしている。	利用者の希望に応じた入浴を支援しており、毎日、入浴する人もいる。入浴を拒む人もいるが、言葉かけやタイミングを工夫するなどして、少なくとも週に2～3回は入浴することができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は設けているが、それぞれの時間を尊重している。眠れない時には声をかけたり、飲み物をお出ししたりして見守っている。昼間でも、休息をとって頂いたり体調にあわせて過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された内服薬等の内容を把握し、正しく服薬できるように支援している。内服薬はその都度服薬確認し、誤薬がないように注意している。体調の変化に応じて医師に報告し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの居場所ができるように、役割を持って頂くように支援している。洗濯ものをたたむ、干す、掃除をする、調理をする、食器を拭く、等出来ることを積極的に継続してできるようにしている。また、気分転換に外出しドライブやお買い物に出かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季を通して、お花見、阿波踊り見物、菊花展、散歩、初詣に出かけている。文化の森へでかけたり、藍住の公園にでかけて楽しまれた。家人とお墓参りにでかけたり、食事に出かけた際には身支度や準備、車イスの貸出しを行いスムーズにでかけられるように支援している。	天気の良い日には、利用者と職員で近隣へ出かけており、神社でお参りしたり、保育所の子どもや住民との出会いを楽しんでもらったりしている。そのほか、季節の外出やドライブなども計画的に実施しており、家族との夕食やお墓参り、散歩等の個別の外出も大切に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族との話し合いにより、小額ご自身で所持して頂く場合がある。外出の際にはご自身で支払ができるように支援している。お金を持つことが出来ない方にも欲しいものが購入できるようにご家族と相談している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	詰所の電話を使用して頂いている。また、手紙を書くことができるように声かけを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるようなカレンダーや飾り付けを行い、貼り絵等の色彩のある作品を掲示し明るい雰囲気作りに努めている。テレビの音量や温度調節、採光にも配慮している。	居間や食堂には畳の間があり、調理場との一体感など家庭的な雰囲気がある。利用者の作品等を掲示しており、居心地良く過ごすことができる空間づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様がそれぞれに落ち着いて過ごせるように、座る場所や周辺環境を整え、机やいすの配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、使い慣れた物を持って来て頂くようにしている。好みや生活に合わせて、居室内の配置も相談している。また、状況により、模様替えをしたり、環境整備に努めている。	居室には筆筒とテーブルを備え付けており、洋室と和室から選択できるようになっている。利用者一人ひとりの使い慣れた家具や馴染みの品物を持ち込んでもらっており、居心地良く過ごすことができるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のない構造であり、手すり設置により階段や廊下も歩きやすくなっている。心身の状況に合わせてベッドや家具の移動をしたり、灯りを置いたり、安全で自立した生活が送れるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とは別に、「手と手のぬくもり溢れる笑顔」を掲げている。フロアの見やすい位置に掲示し、管理者、職員は常に念頭に置き、挨拶、笑顔を忘れずに日々の業務に携わっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住人の方への挨拶を忘れないようにしている。新年の挨拶や、暑中伺いを行っている。保育園との交流ができており、町内の自治会長さんは運営推進会議に参加して頂き、ご意見を頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学者をいつでも受け入れ、グループホームをより理解して頂けるように説明させていただいている。また、運営推進会議を通して、日常生活の様子をお伝えしたり、認知症の理解や支援の方法をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の皆様よりご意見を頂き改善に向けてのアドバイスを頂いたり、ご家族のお話しをお聞きできて、今後の取り組みの力となっている。防火訓練では地域の参加を呼びかけるようご意見やご協力を頂き、実践へむけて取り組めた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表者、管理者が月2回以上、徳島市役所、海陽町役場を訪問し、適時指導や情報提供、報告を行っている。また、生活保護受給者の受け入れや地域包括支援センターとの連携などがあり協働関係の構築に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が及ぼす影響や人権について職員研修を実施し、周知している。また、日常的にケアについて考え、職員間でミーティングを行っている。同意書を頂いて身体拘束を行った事例はなかった。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてコンプライアンスルールを掲示している。管理者が率先して見回りを行い、職員が常に意識し、言葉使いや対応について配慮できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	詰所にパンフレットを置き、いつでも相談・支援できるようにしている。また、地域包括支援センター、県社協等の行う研修に参加できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書等については、ご家族に十分ご説明し納得して頂けるように管理者が対応している。また、改定の際にも書面で説明し同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来設時にはお話しをお聞きするようにし、日頃の様子についてご報告している。また、玄関にご意見箱を設置しており、ご要望をお聞きできるよう努めている。遠方のご家族にはお電話やお手紙にてご連絡する事を心がけ、ご意見を伺えるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎日の申し送りの中で職員が意見や要望が提案できるように努めている。また、個別に意見を聞く時間をつくり、考えや提案がないか働きかけている。運営者と管理者は頻りに連絡をとり、情報の共有をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員に対し、「皆、元気ですか」「お疲れさま」「変わらないですか」と感謝や激励の言葉を常にかけ、職員を認め、やりがいや向上心をもてるようにしている。また、心身の変化にも相談に応じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修、介護職員による痰吸引研修、虐待についての研修、グループホーム協会の大会等に参加し、スキルアップや情報交換の機会をつくるよう進めている。事業所内でも計画的に勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他部門との職員相互に交流、研修の機会を設けている。グループホームとの情報交換も行っており、ネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が職員に対し安心感をもって頂けるように心がけ、ご本人だけでなく、ご家族からも聴き取りを行い、希望や要望を実現できるように努めている。また、関係機関や利用サービス事業所との連携をはかり、情報を得る事でご本人の状況を把握できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、面会時、等にお話しができるよう声をかける事に努めている。お電話でも相談する場合があります、ご家族の要望に耳を傾け、対応するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の相談時に状況を把握したうえで、対応している。満床で対応できない場合は他のサービスの相談を行う場合もある。また、認知症ケアにおける対応等についてアドバイスできるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者ひとり一人の方と向き合い、意向や思いに寄り添えるように努め、残された残存機能が発揮できるように日常生活支援している。常に感謝の言葉を表し、気持ちを伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常生活について喜ばしい事、困った事等を常にお知らせできるように努め、共に相談しながら一緒に支援していただけるように心がけている。遠方のご家族には電話やお手紙でのやり取りも行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人が来設の際にはゆっくりお話しをしていただくようにしている。また、お墓詣りや外出の支援、かかりつけ医への受診の援助、併設のデイサービスとの交流、等を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活を通して馴染みの関係がつかられるように配慮している。食事の席の配置や、外出時、レクリエーション時の関わり合い等、職員が間に入り働きかけや支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退去された方には、その後の経過をお聞きしたり、お電話やお手紙を差し上げたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者の立場にたって、希望や要望をお聞きしている。また、判断に困る場合にはご家族に相談したり、最善の方法を検討している。生活空間には馴染みの家具やご家族の写真、好きなものを身近に置き過ぎて頂いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主治医、ケアマネ、他のサービス関係者との連携を図り、情報を共有できるように働きかけている。ご本人やご家族にも入居時のみならず、随時生活歴をお聞きし把握するように努めている。お聞きした情報は記録し職員皆が共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は一人一人の生活習慣について把握し、その日の状況の見極め、心身状態の変化について気付きをもてるように対応している。気付いたことは職員全員が周知できるように報告や介護記録に残すようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は一人の職員が考えるのではなく、利用者、ご家族、主治医、等の意見を考慮し職員全体で意見を出し合い作成している。短期目標は達成し易いポジティブプランが設定されている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践を毎日記録し、心身の状況を個別に記録している。日々情報交換、共有に努め、毎月のモニタリングにより変化がないか見直し、介護計画に結びつけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の心身の状況に応じ、かかりつけ医を受診したり、往診していただいたりしている。また、職員により、散髪をさせて頂いたり、デイサービスとの交流を図ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族との繋がりを大切にするとともに、これまで行ってきた生活習慣が継続できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者やご家族の意向を踏まえ、かかりつけ医への受診を継続している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に相談しながら、日々のケアや健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には同行し、身体状況の報告や服薬状況の連絡、荷物の運搬を支援している。入院中は定期的に訪問し、様子をお聞きしている。また、退院に向けて医療機関との連携を図り、受け入れ体制を整えるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に書面にて意向をお聞きするようになっているが、随時状況に応じて利用者、ご家族、主治医との話し合いの場を持ち、何ができるか検討している。方針は職員全体が周知情報がわかるように記録に残すようになっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師や消防職員により、救急対応についての指導をうけたり、個別に予測できる事態については医師やご家族と話し合いを持つようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練を定期的に行っている。非常災害マニュアルを見直し、具体的に進められるよう努めている。隣の保育園と協力体制に努め、訓練を一緒に行う等相互に協力している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには常に注意している。記録の際にも敬う気持ちを持って記載している。会議等の場においても、尊敬の念を持って会話している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	能力に合わせた言葉かけや説明を行い、納得した上で行動できるように支援している。強制する事なく、待つ事も大切にしよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のレクリエーションにおいても、強制はせず、個々の生活ペースを重視している。食事時間の配慮や気分転換の散歩や外出にも留意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望や要望に沿って、買い物に同行したり、代行したり、お化粧を手伝ったり、散髪をさせて頂いたり、対応している。その日の衣服を一緒に考えたりして希望に添えるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の準備や肩付け、簡単な調理を一緒に行っている。週1回の夕食作りでは、献立を皆で考え、栄養バランス、季節感を考慮したメニューづくりに努めている。買い物、調理にも協力して頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎回記録し、体重測定を月1回は実施している。食事がすすまない時には捕食の提供も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、口腔ケアを実施している。義歯の洗浄にも留意している。歯ブラシ、スポンジ、ガーゼを使用し定期的に交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意の訴えが困難な方でも定期的にトイレに座って頂けるように支援している。気持ちよく排泄し、清潔保持できるように留意している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取や牛乳の摂取をすすめたり、体操、腹部マッサージ等を行っている。排便状況を記録し、便秘がちな時には医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるようにしている。個々のペースやタイミングに合わせてお誘いするようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は設けているが、それぞれの時間を尊重している。眠れない時には声をかけたり、飲み物をお出ししたりして見守っている。昼間でも、休息をとって頂いたり体調にあわせて過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された内服薬等の内容を把握し、正しく服薬できるように支援している。内服薬はその都度服薬確認し、誤薬がないように注意している。体調の変化に応じて医師に報告し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの居場所ができるように、役割を持って頂くように支援している。洗濯ものをたたむ、干す、掃除をする、調理をする、食器を拭く、等出来ることを積極的に継続してできるようにしている。また、気分転換に外出しドライブやお買い物に出かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季を通して、お花見、阿波踊り見物、菊花展、散歩、初詣に出かけている。文化の森へでかけたり、藍住のバラ園にでかけて楽しまれた。家人とお墓参りにでかけたり、食事に出かけた際には身支度や準備、車イスの貸出しを行いスムーズにでかけられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族との話し合いにより、小額ご自身で所持して頂く場合がある。外出の際にはご自身で支払ができるように支援している。お金を持つことが出来ない方にも欲しいものが購入できるようにご家族と相談している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	詰所の電話を使用して頂いている。また、手紙を書くことができるように声かけを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるようなカレンダーや飾り付けを行い、貼り絵等の色彩のある作品を掲示し明るい雰囲気作りに努めている。テレビの音量や温度調節、採光にも配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様がそれぞれに落ち着いて過ごせるように、座る場所や周辺環境を整え、机やいすの配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、使い慣れた物を持って来て頂くようにしている。好みや生活に合わせて、居室内の配置も相談している。また、状況により、模様替えをしたり、環境整備に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のない構造であり、手すり設置により階段や廊下も歩きやすくなっている。心身の状況に合わせてベッドや家具の移動をしたり、灯りを置いたり、安全で自立した生活が送れるように努めている。		